

鶴ヶ島市立南

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学校教育目標・教育方針	教職員	①私は、学校教育目標や教育方針を理解し、達成できるよう努めている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>教職員は学校教育目標・教育方針を概ね理解し、教育活動に取り組んでいることがうかがえる。「そう思う」の割合が十分とはいえず、目標をより自分事として捉えることが課題である。生徒は学級目標や個人目標に向けて努力しており、日常指導の成果が見られる。一方、保護者においては教育目標の認知が十分とは言えず、具体的な取組と結び付けた情報発信の工夫が求められる。地域については理解が進んでおり、今後も協働を通して教育目標の共有を図っていく必要がある。</p>
	生徒	①私は、学級目標や個人目標を達成するために努力している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>学校教育目標・教育方針について、校内研修や日常の打合せを通して教職員間の共通理解を深め、目標と実践を結び付けた指導の充実を図る。生徒には、学級目標や個人目標と学校教育目標との関連を意識させ、主体的な行動につなげる指導を継続する。また、学校だよりや行事等を通して教育活動を具体的に発信し、保護者や地域との共有を一層進めていく。</p>
	保護者	①私は、学校教育目標や教育方針を知っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>「そう思う」の割合で地域が高いのは、教育に関心のある地域住民が学校とのコミュニケーションを通して教育目標・方針を理解しているためと考えられる。逆に、働く保護者が増え、学校に目を向ける機会が少なくなっていることも一因と考える。コミュニケーションの機会を意図的に増やし、学校教育目標が日々の教育活動とどのように結び付いているのかを具体的に伝えることが必要である。また、生徒については、当校の特徴や魅力を伝える機会を設けることで、学校教育目標をより自分事として捉え、主体的な行動につなげてもらいたい。</p>
	地域	①私は、学校教育目標や教育方針を理解している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

鶴ヶ島市立南

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学級経営	教職員	②私は、生徒のよさや可能性を發揮できる学級経営を行っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>教職員・生徒・保護者・地域のいずれにおいても肯定的な評価が高く、学級が安心して過ごせる場となり、生徒のよさや可能性を生かした学級経営が進められていることがうかがえる。特に、生徒が学級生活を楽しいと感じている点は大きな成果である。一方で、教職員の「そう思う」の割合には差が見られ、学級経営の取組や成果の捉え方にばらつきがあることが課題である。今後は、事例の共有や学級経営の視点の統一を図り、組織的な取組として質の向上を目指す必要がある。</p>
	生徒	②私は、学級での生活が楽しいと感じている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□系列1 □系列2 □系列3 □系列4 □系列5</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>学級経営の向上に向け、校内研修や学年会を通して事例や課題を共有し、学級経営に対する共通理解を深める。また、生徒理解に基づいたセラプラスでの支援の在り方について協議する機会を設け、組織的な支援体制を整えることで、すべての学級で安定した学級経営の実現を図っていく。</p>
	保護者	②学校は、生徒のよさや可能性を發揮できる学級づくりをしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>生徒が学級での生活を楽しいと感じていることは重要であり、生徒と教職員、生徒同士のコミュニケーションの良さが表れていると考える。一方で、楽しいと感じていない生徒がいる場合には、迅速かつ丁寧な対応が必要である。学級経営の成果は日常の関わりの中に表示されるものであり、すべての生徒が安心して過ごせる環境づくりが求められる。小さな変化を見逃さず、組織的に情報共有を行いながら、継続的に支援を充実してもらいたい。</p>
	地域	②学校は、生徒のよさや可能性を發揮できる学級経営を行っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

鶴ヶ島市立南

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学習指導①	教職員	③私は、生徒が意見を主体的に発表したり、他者の意見を聞いたりして学びを深める授業を実践している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>教職員・生徒・地域からは概ね肯定的な評価が得られており、「学び合い学習」が定着しつつある。一方、かつて主流であった一斉授業のイメージが強く残っている保護者にとっては、現在の学び合いを重視した授業の意図や効果が分かりにくい面がある。今後は、授業公開や学校だより等を通して、学習形態の変化やねらいを丁寧に伝えていくことが課題である。</p>
	生徒	③私は、自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれながら勉強している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>学び合いを重視した授業のねらいや効果について、授業公開や学校だより、保護者会等を通して具体的に伝え、理解の促進を図る。また、教職員間で授業づくりの視点や手立てを共有し、校内研修を通して主体的・対話的な学びがすべての授業で実感できるよう指導の充実を図る。生徒の学びの様子を積極的に発信することで、保護者と学校の共通理解を深めていく。</p>
	保護者	③学校は、生徒が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>生徒において「③あまりそう思わない」「④そう思わない」の割合が一定数見られることから、主体的に発表したり意見を交流したりすることに難しさを感じている生徒がいると考えられる。発表の機会を増やし、自分の意見を伝える力を育てることは重要であるが、あわせて友達の意見を素直に聞き取り、考えを深める態度を育てることも大切である。学び合いの質を高めるため、発言しやすい環境づくりや対話の在り方を工夫し、すべての生徒が学びに参加できる授業づくりを今後も進めてもらいたい。</p>
	地域	③学校は、生徒が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

鶴ヶ島市立南

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学習指導	教職員	④私は、学習目標達成のために学習用端末や大型モニター等のICT機器を活用して、わかりやすく工夫した授業を行っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>教職員・生徒・地域からは肯定的な評価が多く、学習用端末や大型モニターを活用した授業が定着しつつあることがうかがえる。一方、保護者においては「わからない」とする回答が一定数見られ、ICT活用のねらいや学習への効果が十分に伝わっていないことが課題である。ICTを学習の深化につなげる指導の工夫と、取組の見える化を進めていく必要がある。</p>
	生徒	④私は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりして、積極的に授業に参加している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>ICT活用のねらいや学習への効果について、授業公開や学校だより、保護者会等を通して具体的に伝え、保護者の理解を深める。また、教職員間で効果的な活用事例を共有し、生徒の実態に応じた活用場面や手立てを工夫することで、ICTを学習の深化につなげる指導の充実を図る。さらに、生徒の学びの様子を発信し、取組の見える化を進めていく。</p>
	保護者	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>教職員・生徒・保護者において一定数の否定的回答が見られることから、ICT活用の効果や意義が十分に実感されていない面があると考えられる。昨今はビッグデータやAIなど技術革新が急速に進み、教育現場でも活用の在り方が問われている。新しい技術に目を向けつつも、安全で確実な方法を選択し、学習の深化につながる活用を進めることが重要である。ICTを目的化するのではなく、思考力や表現力を高める手段として効果的活用してもらいたい。</p>
	地域	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	

鶴ヶ島市立南

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
体力	教職員	⑤私(学校)は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、生徒の体力向上を図っている。	<p>① 73% ② 27%</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>教職員や地域からは、体育の授業や体育的行事の確保により、生徒の体力向上に向けた取組が進められているとの肯定的な評価が得られた。一方、生徒や保護者の評価では「だいたいそう思う」や否定的な回答も見られ、運動習慣や体力向上の実感には個人差があることがうかがえる。今後は、日常的に運動に親しむ機会をさらに充実させ、体力向上の成果を実感できる取組を進めていくことが課題である。</p>
	生徒	⑤私は、体育や休み時間・部活動等で、校庭や体育館などでいろいろな運動をして、体力をつけようと努力している。	<p>① 49% ② 32% ③ 17% ④ 2%</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>体育の授業を中心に、体を動かす楽しさや運動の意義を実感できる指導を充実させるとともに、体育的行事や休み時間、部活動に加え委員会活動を主体的に動かし、運動に親しむ機会を広げていく。</p>
	保護者	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、生徒の体力向上を図っている。	<p>① 31% ② 61% ③ 3% ④ 4% ⑤ 1%</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>生徒において「③あまりそう思わない」「④そう思わない」の回答が一定数見られることから、運動習慣や体力向上を十分に実感できていない生徒がいると考えられる。体育の授業時間が限られていることや運動部の数が少ないことも一因と推察される。運動の得意・不得意にかかわらず、体を動かすことの意義を理解し、日常的に取り組もうとする意識を育てることが重要である。健全な心と体を育てる基盤として、継続的に運動に親しむ環境づくりを進めてもらいたい。</p>
	地域	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、生徒の体力向上を図っている。	<p>① 79% ② 21%</p>	

鶴ヶ島市立南

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導	教職員	⑥私は、生徒の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭と連携・協力しながら対応している。	<p>① 57% ② 43% ③ 0% ④ 0% ⑤ 0%</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>教職員や地域からは、いじめやトラブル等の生徒指導上の課題に対し、家庭と連携しながら組織的に対応しているとの肯定的な評価が多く見られる。一方、一部ではあるが、生徒、保護者においては「相談して一緒に解決しようとしている」と感じている割合が十分とは言えず、支援の受け止め方に差があることが課題である。今後は、生徒が安心して相談できる体制づくりを進め、支援の見える化を図る必要がある。</p>
	生徒	⑥私は、いじめやトラブルなどの問題に対して、先生や保護者に相談し、一緒に解決しようとしている。	<p>① 39% ② 45% ③ 11% ④ 5% ⑤ 0%</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>いじめやトラブル等の未然防止・早期対応に向け、教職員間の情報共有を密にし、組織的な対応体制をさらに強化する。また、日常的な声かけや面談、セラプラスを活用して、生徒が安心して相談できる関係づくりを進め、家庭との連携を継続し支援の充実を図る。取組の内容を生徒や保護者に丁寧に伝え、生徒指導に対する信頼の向上につなげていく。</p>
	保護者①	⑥学校は、いじめやトラブルなどの問題に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	<p>① 29% ② 51% ③ 8% ④ 2% ⑤ 10%</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>生徒や保護者において、いじめやトラブルへの対応について学校と家庭が十分に連携していると感じていない回答が一定数見られた。また、「わからない」と回答した保護者もいることから、学校の取組や対応状況が十分に伝わっていない可能性も考えられる。日頃から生徒・保護者との対話を重ね、問題の早期発見と早期対応に努めるとともに、取組内容を積極的に発信していくことが重要である。三者間の情報共有を丁寧にいき、安心して相談できる体制づくりをさらに強化してもらいたい。</p>
	地域	⑥学校は、生徒の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	<p>① 64% ② 36% ③ 0% ④ 0% ⑤ 0%</p>	

鶴ヶ島市立南

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導②	教職員	⑦私は、生徒のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>教職員や生徒からは、生徒一人一人のよさや可能性を伸ばし、成長やつまずき、悩み等を理解しようとする取組に対して、概ね肯定的な評価が得られている。一方、保護者においては評価にばらつきが見られ、生徒理解や支援の内容が十分に伝わっていない面があることが課題である。今後は、生徒の変容や支援の取組を丁寧に発信し、学校と家庭との共通理解を深めていく必要がある。</p>
	生徒	⑦私は、自分のよさや可能性を伸ばしたり、友達との関わりを大切にしながら、自分の目標に向かって行動したりしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>生徒一人一人のよさや可能性を的確に捉えるため、日常的な観察や面談、情報共有を通して生徒理解を深めていく。また、支援の意図や成果を学年だよりや保護者会等で丁寧に伝え、家庭との共通理解を図る。教職員間で支援の方法を共有し、組織的な支援体制を充実させることで、生徒の成長を継続的に支えていく。</p>
	保護者	⑦学校は、生徒のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>教職員、生徒、地域においては、生徒のよさや可能性を伸ばす教育が行われているとの認識が概ね共有されている。一方で、保護者の中には否定的な回答も見られ、学校の取組や成果が十分に伝わっていない可能性がうかがえる。教育活動の意図や具体的な実践、生徒の成長の様子について、学校だよりや保護者会等を通して丁寧に発信していくことが必要である。今後は、情報提供の充実と対話の機会を大切に、家庭との相互理解を一層深めてもらいたい。</p>
	地域	⑦学校は、生徒のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	

鶴ヶ島市立南

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
特別支援教育	教職員	⑧私は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	<p>① 31%    ② 46%    ③ 23%    ④ 0%    ⑤ 0%</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>教職員や保護者からは、一人一人の特性を理解し、家庭と連携しながら個に応じた指導や支援を行っている点について、概ね肯定的な評価が得られている。一方、生徒や地域においては支援内容が分かりにくいとの受け止めも見られ、特別支援教育の取組や意図が十分に共有されていないことが課題である。今後は、校内での共通理解を一層深めるとともに、支援の在り方を分かりやすく発信していく必要がある。</p>
	生徒	⑧私は、苦手なことなどを、先生や保護者に相談し、一緒に解決しようとしている。	<p>① 30%    ② 41%    ③ 25%    ④ 4%    ⑤ 0%</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>一人一人の特性や教育的ニーズに応じた支援を行うため、校内委員会やケース会議を通して教職員間の共通理解を深め、組織的な支援体制を充実させる。また、家庭や関係機関との連携を継続し、支援内容や指導のねらいを丁寧に共有する。あわせて、特別支援教育の取組を分かりやすく発信することで、周囲の理解を促進し、安心して学べる環境づくりを進めていく。</p>
	保護者	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	<p>① 25%    ② 53%    ③ 13%    ④ 5%    ⑤ 4%</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>教職員や保護者からは概ね肯定的な評価が得られており、個に応じた指導が一定程度実践されていると評価できる。実際に支援や配慮を受けていると感じている家庭も多いと考えられる。一方で、個に応じた指導が十分に行き届いていないと感じている児童生徒がいる可能性も否定できない。すべての子どもが支援を実感できるよう、小規模校の特性を生かし、一人一人に目を向けた丁寧な指導をさらに充実してもらいたい。</p>
	地域	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	<p>① 93%    ② 7%    ③ 0%    ④ 0%    ⑤ 0%</p>	

鶴ヶ島市立南

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
地域とともにある学校	教職員	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	<p>① 27%      ② 73%      ③ 0%      ④ 0%      ⑤ 0%</p>	<p><b>評価結果についての分析・課題</b></p> <p>教職員・保護者・地域のいずれにおいても肯定的な評価が高く、学校運営協議会や学校応援団の意義を理解し、地域と連携した学校づくりが進められている。今後は、地域と協働する取組の目的や成果を分かりやすく伝え、より多くの生徒が参画できる体制づくりを進めていく必要がある。</p>
	生徒			<p><b>課題解決への方策</b></p> <p>本校は、中学生が参加する地域ボランティア活動が盛んで、盆踊りや祭り等の地域行事を通じた交流も多く、地域と学校とのつながりが深いことが特徴である。教職員・保護者・地域からも肯定的な評価が高く、協働による学校づくりが進められている。参加が一部にとどまる傾向があるので、より広い参画につなげていく必要がある。</p>
	保護者	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに協力している。	<p>① 40%      ② 54%      ③ 3%      ④ 2%      ⑤ 1%</p>	<p><b>学校関係者評価委員会による評価</b></p> <p>全般的に肯定的な回答が多く、保護者の学校運営への参画意識が高いことは評価できる。学校と家庭・地域との関係は概ね良好であり、協力体制は着実に築かれているといえる。一方で、教職員において「そう思う」の割合が高くない点については、地域との直接的な関わりが十分でないことが一因として考えられる。しかし、これは教職員が教育活動に専念できるよう、保護者や地域が支援的な立場を取っていることのとらえられ。今後は、相互理解を深めながら、より効果的な連携の在り方を模索してもらいたい。</p>
	地域	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	<p>① 64%      ② 29%      ③ 7%      ④ 0%      ⑤ 0%</p>	

鶴ヶ島市立南

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
働き方改革	教職員	⑩私は、働き方改革の目的を理解し、業務改善を進め、心身ともに健康であるよう努めながら、教科指導や教育相談等に係る時間を増やし、教育の維持・向上に努めている。	<p>① 20%      ② 80%</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>教職員からは、働き方改革の目的を理解し、業務改善を進めながら教育の質の維持・向上に努めているとの肯定的な評価が得られている。一方で、「そう思う」の割合は高いとは言えず、業務負担の軽減や時間確保については十分な実感に至っていない面も見られる。今後は、業務の見直しや役割分担を一層進め、教職員が心身の健康を保ちながら、生徒と向き合う時間を確保できる働き方の実現が課題である。</p>
	生徒			<p>課題解決への方策</p> <p>業務内容や行事の精選、役割分担の見直しを進め、教職員の業務負担軽減を図る。また、校内の情報共有方法を工夫し、会議や打合せの効率化を進めることで、授業準備や生徒対応に充てる時間を確保する。あわせて、教職員の心身の健康に配慮した職場環境づくりを推進する。</p>
	保護者			<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>教職員が心身ともに良好な状態で教育活動に取り組むことは、子どもたちの健やかな成長に直結する重要な要素である。反対に、教職員の心身のコンディションが損なわれれば、教育の質や子どもの安心感にも影響を及ぼしかねない。そのことを十分に踏まえ、教育相談体制の充実による心のケアを図るとともに、ICTや各種ITツールを活用した業務改善を一層推進することが求められる。教職員が安心して力を発揮できる働きやすい環境づくりを継続的に進めてもらいたい。</p>
	地域			